

令和5年3月15日

千葉市長 神谷俊一様

千葉市新みどりと水辺の基本計画策定委員会

会長 木下 剛

次期千葉市緑と水辺のまちづくりプラン（案）について（答申）

令和3年10月25日に諮問された、次期千葉市緑と水辺のまちづくりプラン（案）について、市民との意見交換や本委員会での全5回に渡る慎重な審議を行いました。

この度、今後の緑と水辺のまちづくりの方向性として、自然環境が有する多機能性をまちづくりに活かし様々な社会課題の解決を図るグリーンインフラという考え方を基軸に据えて、次期計画を「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023（案）」としてとりまとめました。

次期計画（案）では、グリーンインフラの効用発揮に資する全55の施策の方向性を掲げ、全市レベルでは、歴代の計画から続く、緑と水辺の骨格の継承を目指し、近隣レベルでは、身近な緑と水辺との関わりをより一層はぐくみ、緑と水辺に関わる人々のレベルでは、こうした人の輪（ネットワーク）を広げていく姿を目指すものとしています。

先行きが見通しにくい社会のなかでも、この計画が緑と水辺のまちづくりの羅針盤となり、縄文より続く、住みやすいまち、訪れたいまちを次世代に継承していけることを願って、別添のとおり答申します。